



平成 24 年 4 月 11 日

「原子力安全」調査専門委員会  
第 8 回放射線影響分科会議事録

平成 24 年 4 月 7 日 13 : 30 から、第 8 回放射線影響分科会を開催した。議論された主な内容は以下のとおりである。

- (1) 放射線影響分科会報告書について
- (2) 今後の放射線影響分科会の活動について
- (3) 放射線リスクの考え方について

(1)では、2011 年春の年会時に実施された原子力安全調査専門委員会打合せにおいて、委員会報告書（各分科会ごとに取りまとめ）6 月末をめどに完成を目指すことが決められたことについて説明があった。

本分科会での報告書取りまとめ方針としては、これまでの分科会の活動報告に加え、HP 上で公開した提言、シンポジウムや学会企画セッション等で発表された内容をもとに取りまとめることとした。取りまとめにあたっては、分科会として実現できたことと課題を明らかにし、人材育成や学術的な観点から今後必要とされる研究等についても記述することとした。

また、報告書には、提言、解説、シンポジウム等で発表されたスライド、安全・安心フォーラム説明資料等を参考資料として添付することとした。

(2)では、今後の専門委員会の活動として、安心・安全フォーラム（福島）、事故の技術的な内容に関する一般シンポジウムが予定されているとの報告があった。

また、理事会において引き続き原子力安全調査専門委員会で東電福島第一原子力発電所事故に関する検討を継続することが了承されている旨の報告があった。

放射線影響分科会としては、報告書完成を目指すとともに、今後の活動に必要なメンバーの見直しを行い、報告書作成後は新しい体制での運営が提案された。

(3)では、一部報道等で起こっている放射線リスクに関する重大な誤解について説明があった。分科会内での放射線リスクに関する考え方について統一を図るため、ICRP のデトリメントの考え方を確認するとともに、他のリスクと放射線リスク比較時に注意すべき点等について意見交換がなされた。

以上